

令和8年1月8日

東員町議会
議長 南部 豊 様

「令和7年度委員会活動報告書」

北勢線対策検討特別委員会

委員長	片松雅弘
副委員長	山崎まゆみ
委員	三林 浩
委員	大谷勝治
委員	伊藤治雄
委員	広田久男

●経緯（委員会活動）

三岐鉄道北勢線は、日本で 3 路線しかない軌道幅 762 mm のナローゲージです。本町と沿線 2 市が平成 15 年度から 10 年間は運行支援することを条件に三岐鉄道株式会社が運営を継承しました。しかし厳しい経営状態が続き、その後も 3 年ごとに更新する暫定的な支援を続けています。

際限なく税金を投入することは町民の理解が得にくいと考え、三岐鉄道北勢線の存続を含めた、経営改善や新しい公共システムの研究などに特化して行い、提言をすることを目的としています。

まずは、北勢線運営協議会が行った「三岐鉄道北勢線の今後の在り方に向けた基礎調査の結果」の概要説明を担当課に求め、勉強会を実施しました。

その後、徳島県阿佐海岸鉄道の DMV を視察研修に行きました。

研修後は、委員会で総まとめを行い、情報共有を目的として、担当課と意見交換会を実施しました。

●背景

県や沿線自治体の財政支援、国土交通省の補助金などを活用し、軌道強化、パーク&ライド施設の整備など、様々な事業が行われてきました。

これにより運行時間の短縮や IC カード導入など利便性が向上しました。

収入はコロナ禍前（2019 年）より上回っていますが、赤字からの脱却はできず、沿線の自治体からの支援額は更新ごとに増えています。

本町では、少子高齢化の進行や生活様式の変化により、地域鉄道やコミュニティバスの在り方も大きく転換期を迎えています。

●委員会の考え方

こうした状況の中、際限なく沿線自治体が従来どおり支援を続けるだけでなく、本業である鉄道利用者数を一人でも増加させる努力や、鉄道運賃収入以外の安定的な収入事業の実施など、本気になって企業努力を行っていただく様々な取り組みが必要です。

令和 8 年度は、沿線市町の議会議員と情報共有や意見交換などを積極的に行ない、三岐鉄道北勢線に対して「増え続ける暫定支援」から「三岐鉄道による自立運行」が重点目標と考え「少しでも支援額を減額する」努力を鉄道会社に求め続けていきます。